

— 第6章 環境保全への理解と取組 —

第1節 環境教育

1 学校教育

(1) 概要

高松市教育委員会は、市内の小・中学校において環境教育を推進するため「指導の重点」としてとりあげ、環境教育の指導を行っています。具体的な指導項目については、以下の3点です。

ア 教育活動全体における様々な体験活動を通して、環境や自然に対する豊かな感性を高め、環境について理解を深める。

イ 環境の保全やよりよい環境の創造のために、発達段階や学年に応じて、主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育てる。

ウ 家庭や地域、社会施設、関係機関等との連携を図り、体験的な活動の場への積極的な参加を促す。

(2) 子ども環境学習交流会の開催

地域や学校の実態に応じて行われている様々な環境学習について、子どもたちが意見交換をしたり、環境保全にかかわる体験をしたりして、環境に対する意識を一層高め、環境教育の推進を図っています。環境学習交流会では年々、各校の取組発表の内容が充実してきており、環境教育の充実がうかがえます。

平成18年度から、市町合併に伴い学校数が増加したこともあり、高松市立の小・中学校を2班に分けて隔年での参加としました。そして、23年度は、昨年度に参加していない学校を対象に、7月27日（水）、7月28日（木）に南部クリーンセンターで開催しました。2日間で、185人の児童生徒、38人の教員、64人の保護者が参加しました。

(3) 小学校社会科副読本の発行

学校教育を通してごみ処理に対する理解と正しい知識を学んでもらうことを目的に、副読本「きれいな高松に・くらしとごみ」を高松市小学校社会科研究会所属の先生方の編集により毎年度発行し、小学校4年生の社会科の補助教材として活用しています。

(4) 水源教育の推進

中学生を対象とした「香川用水の水源巡りの旅」を実施し、香川用水および水資源に対する認識を深めています。23年度は、4月から7月にかけて15校（参加生徒数 2,637名）が参加し、池田ダム、香川用水記念公園、東西分水工、早明浦ダムを見学しました。

水源巡りの旅の後、水についてグループ別に調べ、発表会を実施するなど、総合的な学習の時間等を有効に活用し、体験と調べ学習、啓発活動を一体化した環境学習を展開する学校が増えてきています。

(5) 各学校における取組

ア 古高松南小学校の取組

古高松南小学校区には、新川と春日川が流れ、久米池を含め、たくさんのため池があります。地域の方に話を聞くと、50年前には、夏に泳げるくらいきれいでしたが、今では、た



くさんのごみがあり、昔の面影はあまりないそうです。そこで、校区の中心を流れる新川の自然や歴史、久米池のアサザとのつながりを調べ、地域に生きる一員として私たちに何ができるかを考え、行動していきたいと思い、4年生が中心に取り組んでいます。

<春の遠足をきっかけに>

学校の西側を流れる新川には遊歩道があり、地域の人がラジオ体操などをしたり、川辺で遊んだりして、慣れ親しんでいます。また、カメやエビなどの水生生物がいて、水鳥も飛来しています。新川を散策しながら、「思ったよりごみが多いね」「水が汚れている」と感じました。社会科で浄水場を見学して、私たちが必要としているきれいな水を作るためには大変な苦労が数多くあることを知り、水を大切にしなければならぬことを学びました。循環している水の一部には、私たちが日頃使っている生活用水や新川、久米池の水があることを知り、水を汚さないようにするとともに米のとぎ汁や風呂の残り湯を再利用することの大切さを感じました。

<新川の水質調査>

6月に入り、新川の様子を観察に行き、パックテストで水質検査を行いました。パックテストでは、8以上の非常に汚れているという結果が出ました。

大雨が降った後の川には、いつも以上にごみがあることに驚きました。ごみの多くは、たばこの吸い殻やペットボトル、食べ物の包み、また、何かの部品と思われる大きな金属片など、埋め立てごみのようなものが入ったゴミ袋もあり、明らかに人間が捨てたものでした。上流から流されてきたごみもたくさんあることが分かりました。なぜこんなごみがあるのか、ごみの多さや、川が汚されている現実に驚きながら、ごみ拾いをしました。短時間でしたが燃えるごみは、45Lのビニール袋を1つ分、燃えないごみを4つ分拾いました。



<地域の方の取組>

校区にある久米池は、農業用水だけでなく、上水の一部として利用していて、昔から大切にされてきたため池です。また、絶滅危惧種Ⅱ類である「アサザ」の生息地でもあります。地域の人々は、久米池とともにアサザを守っていく様々な活動を始め、8年前からはEMだんごを作り、久米池に投げ入れています。

5年前から、その活動に4年生が参加しています。平成23年度もその活動を引き継ぎ、初めは慣れない臭いに戸惑いながらも、EMだんごを作りました。EMだんごを久米池に投げ入れることで、久米池がきれいになっている話を聞き、熱心にだんご作りに取り組みました。



<今後の計画>

- (1) 新川・久米池に生息する生物の調査を引き続き行う。
- (2) 作ったEMだんごを使った地域の取組に参加したり、地域の一員としてアサザを保存するために、苗の植え付けやその後の観察を続けていく。
- (3) EM菌の働きについて調べ、EM液作りを行い、活用する。
- (4) 全校奉仕活動と総合的な学習の時間の中でのクリーン作戦を実施する。

- (5) 総合的な学習の時間の発表会で、新川・久米池について学んだことを、全校生や保護者、地域の方に発信する。

イ 国分寺中学校の取組

国分寺中学校は生徒数825名、新興住宅地と昔ながらの田畑が混在する地域にあります。敷地内には睡蓮の咲く泉水、芝生の花壇や大木のある煉瓦が敷き詰められた広い中庭もあります。その中庭を囲むように校舎が建てられており、南館南側には、運動場が配置されています。特に22年度の夏は、運動場や煉瓦からの照り返しや輻射熱が強かったことに加え、耐震化工事により新しく壁が作られ、窓には鉄骨の筋交いがあることから風通しも悪くなり、校舎内は大変暑く感じられました。

<取組の目的>

本校が取り組んでいる「魅力ある学校づくり」の一環として、自然を活用することで落ち着きのある学習環境や癒やしの空間を作ること、また、緑化委員会や部活動ボランティア活動を活性化させ、生徒の自己肯定感を高めることを目的に、学校や地域の緑化活動に取り組んでいます。

<実践内容>

(1) 校内緑化の推進

① 緑のカーテンによる教室の涼化

南館の南側では防球ネットを利用し、中庭に面した北館南側にはネットを張るなどし、種から育てた「ゴーヤ」と「オーシャンブルー」をはわせました。



② 芝生の緑と花々による癒しの空間作り

花壇の周辺に花を植えたプランターを置いて芝生を保護するとともに、集会時に緑化委員会から「芝生再生」を呼びかけました。また、1年生全員による「一人一鉢」を実施し、施肥や水やりなどの維持管理は緑化委員会が行っています。



③ 観葉植物の配置と育成

校舎内の廊下や階段の踊り場など、無機質な空間に観葉植物を置きました。水やりなどの管理は各学年の緑化委員が担当しています。毎年少しずつ大きくなる植物とともに、生徒たちもやがて卒業を迎えることとなります。

(2) 各部活動によるボランティア活動

本校は地域と連携した様々なボランティア活動を実施していますが、その一環として、夏季休業中の水やりは各部活動単位で行っています。また、緑のカーテンを育てるための防球ネット沿い全長約60mの花壇も、部活動ボランティアによって作られました。

(3) 地域とのつながり

23年度はゴーヤを種から育てることに挑戦した結果、ポット苗を260個ほど作ることができました。学校だけでなく、コミュニティセンターや高齢者福祉施設など地域に配布し、活用してもらうことができました。

<まとめとこれからの課題>

緑の植物や色とりどりの花が咲き乱れる中庭を、ゆっくり散策する生徒、ベンチに腰掛け楽しそうに語り合う教師と生徒、穏やかな眼差しで花のスケッチをする生徒の様子を見ると、生徒や職員にとっても癒される空間作りとなったことが伺われました。また、上層階から眺める中庭も美しく、上級生は窓から眺めつつ語り合う様子が見られました。

緑のカーテンは種まきの時期が遅かったため、教室涼化の役目を十分に果たすことはできませんでした。しかし、夏季休業中の補充学習や部活動の休憩時には、風にゆれる緑の葉陰に涼やかな空間を提供してくれました。

23年度は、夏季休業中の水やりを部活動単位のボランティアを行うことで乗り切ることができました。緑化委員会や部活動など様々な立場から多くの生徒が関わり、その役割を果たすことで、美しく、心癒される空間を作り出すことができました。生徒総会でも取り上げられた「もっと緑を、花を」の要望に応えることもでき、生徒の達成感が感じられました。

来年度以降もこの空間を維持できるよう、緑化活動として位置付けていきたいと考えています。

(6) チャレンジ！グリーン活動

香川県教育委員会が実施している「チャレンジ！グリーン活動」に参加し、資源の有効活用等に積極的に取り組む教育活動の推進を通して、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる児童生徒の育成のために、平成14年度から行われています。

23年度は12校、17の推進グループが参加して、自主的に活動内容を考え、栽培、緑化運動、牛乳パック、プルタブ・アルミ缶の回収活動、地域清掃等の活動に取り組みました。

学校数・グループ数（平成23年度）

栗林小学校	2
木太小学校	1
林小学校	1
下笠居小学校	1
木太南小学校	1
古高松南小学校	2
屋島東小学校	1
屋島西小学校	1
木太北部小学校	1
上西小学校	1
塩江小学校	1
国分寺南部小学校	4
12小学校	17

2 社会教育

(1) 高松エコマイスター会議

私たちを取り巻く様々な環境問題を解決していくためには、市と市民・事業者のパートナーシップを築いていくことが不可欠です。

こうしたことから、そのパートナーシップを築いていくための一つの手段として、平成11年度からの2年間、市民の自発的な環境行動を支援するリーダーとしての役割を担うエコマイスターの養成事業を行いました。

平成13年4月、この養成講座の修了者が活動の輪を広げるため、自主的に集まり、高松エコマイス

ター会議を結成しました。

この事業活動の一環として、親子自然体験プログラム「エコマイスター自然学校」を開催しており、市民の自発的環境行動への支援事業を展開しています。



「干潟で感動体験！エコマイスター自然学校2011」

開催日 : 平成23年8月7日(日)

開催場所 : 春日川河口

参加者 : 親子10組21人

(2) こども農園事業の実施

子どもたちに、農作業を通じて自然にふれあえる機会を提供し、農作物を育てる喜びと、勤労の尊さを体験させる場としてこども農園事業を実施し、健康で情操豊かな子どもの育成を図っています。

平成23年度 14農園 7,955㎡

こども農園設置一覧表							
校区名		農園設置場所	面積(㎡)	校区名		農園設置場所	面積(㎡)
1	花園	上福岡町	864	9	東植田	東植田町	415
2	三溪	三谷町	300	10	東植田	東植田町	326
3	多肥	多肥上町	210	11	植田	西植田町	1,000
4	多肥	多肥上町	220	12	植田	西植田町	
5	川岡	川部町	2,300	13	木太南	木太町	420
6	川岡	川部町		14	古高松	高松町	1,250
7	川岡	川部町					
8	円座	円座町	650	計(面積(㎡))			7,955



こども農園事業の様子

(3) 早明浦湖水祭「四国の子ども交歓会」

本市と高知県嶺北地域の子どもたちが、早明浦ダム湖畔などで交流活動を行い、水の大切さや有効利用を学ぶとともに、自然の中で友情を深め、健康で明るい子どもの育成を図っています。

平成23年度

実施日 8月27日および28日の2日間

実施場所 高知県土佐郡土佐町

高松からの参加者 子ども22人



早明浦湖水祭「四国の子ども交歓会」の様子

(4) 市民文化センターの昆虫展示室

市民文化センター内の昆虫展示室（床面積約 170 m²）では、県内を中心に世界の有名な昆虫の標本 3,770 個体、約 800 種（128 箱）を集め、「ふるさとの昆虫」、「昆虫の生態と分類」、「昆虫と文化」、「カブトムシの巨大模型」、「昼と夜の樹木に集まる昆虫」の五つのコーナーを設けて展示していました。

子どもたちが、自然に親しみながら昆虫の種類や名前、生態を楽しんで学習できるよう各コーナーごとに環境写真や分布図・解説文を添えたユニークな展示方法をとっています。それは博物館などが専門的な視点で展示しているのと異なり、市民文化センターの昆虫展示室では、昆虫のくらしや生息環境が手に取るように分かるのが特徴です。特に、子どもたちに人気のある昆虫が、より身近に感じられるように、また、図鑑などを使わなくても実物と見比べながら自分で名前が調べられるように工夫し、さらに昆虫に親しんだり、生命の大切さに気づいたり、生き物と環境について興味や関心がもてるよう工夫していました。

また、環境の変化に伴い絶滅が危惧されている種については、レッドマークの表示を行っていたほか、近年の地球温暖化などによって、分布が広がり県内でもよく見られるようになった昆虫も分かりやすく展示していました。

市民文化センターは、平成 24 年 3 月に閉館しましたが、新しく整備する「こども未来館（仮称）」にも昆虫展示コーナーを設けることにしていますので、郷土の環境保全と市民意識の高揚にも配慮し

ながら、展示方法も含め検討していきたいと考えています。

平成23年度 入館者数 24,821人



昆虫展示室の様子

(5) こどもエコクラブ

こどもエコクラブ事業は、環境を大切に思う心を育て、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全活動に参加する態度および環境問題解決に役立つ能力が育成されることを目的として、平成7年度から環境省が日本環境協会に委託し、将来を担う子どもたちが主体的に行う環境学習および環境保全に関する活動を支援する事業です。

本市では、クラブの登録受付、キット配布等全国事務局との連絡を行っており、21年度の登録状況は次のとおりです。各々のクラブでは創意工夫ある自主的な活動のほか、全国事務局や市、民間企業の主催による行事に参加しています。

登録クラブ数および会員数

	高松市	香川県	全国
クラブ数	3	11	3,313
会員数	52	769	148,919

(平成24年3月31日現在)

登録状況

クラブ名	会員数	サポーター数
シオン・エコサイエンスクラブ	6	2
高松市立東植田小学校	40	20
さぬきこどもエコクラブ	6	2

(平成24年3月31日現在)

第2節 環境保全活動

1 環境保全推進課分室（旧環境プラザ）

環境学習の拠点施設として各種の環境学習事業を展開してきた「公の施設」としての「高松市環境プラザ」は平成23年度末で廃止となりました。

24年度以降は施設を環境保全推進課の分室として位置づけ、管理運営は直営としたうえで無料で環境活動団体等に貸出すとともに環境学習活動に活用します。

また、今まで施設を利用しながら環境プラザ勤務の非常勤嘱託職員が中心となって行ってきた環境学習活動は、環境活動団体等の自主的な活動や相互交流を促進する観点からも、環境活動団体等が中心になって実施することとしました。

(1) 施設の概要

所在地 高松市西宝町一丁目13番30号 TEL 087-861-6660 FAX 087-861-7600

敷地面積 706㎡ 建築面積 320㎡ 延床面積 568㎡

構造 鉄骨軽量気泡コンクリートパネル張 一部2階建

総事業費 1億6,101万1,660円

開館時間 10:00～18:00（土・日は17:00まで）

休館日 月曜日、祝日、年末年始

太陽光発電設備 効率向上追求型 容量10kW

（15年度NEDO太陽光発電新技術等フィールドテスト事業採択）

(2) 環境学習活動のメニュー

メニュー	概要	目的	対象者	実施場所
環境ワークショップ	環境問題全体を考え、対策などを参加者全員で考える。	環境問題全般の知識の習得。	小学生から大人まで	環境保全推進課分室等
環境学習支援事業	市民（地域）からの要望などにより「出前講座」を開催。（事業所を除く。）	地域における環境問題全般の知識の習得。	小学生から大人まで	学校やコミュニティセンター、集会場等
リサイクルアート事業	廃棄物（廃材）等を使ったリサイクルアートの製作・展示やリサイクル工作。	環境問題全般の知識の習得。	就学前（児童）から大人まで	学校やコミュニティセンター、集会場、環境保全推進課分室等
自然観察体験事業	野外での干潟の観察会や里山の自然観察など。	屋外での自然観察を通じ、自然保護や生物多様性について認識を深める。	小学生から大人まで	屋外
人材派遣事業	事業所等からの要望などにより出前講座。	環境問題を、より専門的な内容について学ぶ。	派遣先の事業所の職員・社員	事業所または環境保全推進課分室等
人材育成事業	一定の知識、経験を持った人材のステップアップ講座。	地域等において行う環境活動のリーダーを養成する。	一般市民および環境リーダー養成講座の修了生	環境保全推進課分室等

(3) 年度別利用状況

区分	年度				
	H19	H20	H21	H22	H23
来館者数(人)	4,052	4,053	4,767	4,230	3,087
1日当たり来館者数(人)	14	14	16	14	10
図書・ビデオ貸出利用件数(件)	22	7	1	2	2
不用品交換登録件数(件)	1,038	1,055	1,008	806	650
出前講座件数	63	59	50	52	43
出前講座人数	2,802	2,677	2,114	2,074	1,379



環境保全推進課分室（旧環境プラザ）で学習している様子

2 南部クリーンセンター「エコホタル」利用者数(見学コースまたは学習室の利用者数)

南部クリーンセンターの管理棟には、環境問題について学習できる「エコホタル」があります。一階には紙すきや工作等を実際に体験できる「学習室」、二階にはパネルや映像を通して広く環境問題を学習できる展示ギャラリーや見学者説明室があり、見たり、聞いたり、また、体験を通して、楽しみながら学習できる施設です。また、見学コースは、職員の説明を受けながら、ごみ処理施設、廃棄物再生利用施設などを見学し、実際のごみ処理方法の実情を知ってもらいます。

(単位：人)

施設	年度					
	H18	H19	H20	H21	H22	H23
エコホタル	3,133	2,518	3,230	3,646	3,209	2,742



見学説明



親子工作会



紙すき体験（紙すき）

3 衛生組合

(1) 目的・組織

地域住民によって自主的に組織されている衛生組合は、地域社会を住みよい快適な環境とするため、生活環境の改善および環境美化運動の推進、環境および公衆衛生思想の普及向上等に関する自主的実践活動を行っています。衛生組合の組織は、単位組合が地区ごとに地区衛生組合協議会を結成し、これら地区衛生組合協議会が連合して、高松市衛生組合連合会を結成しています。

加入世帯 → 単位衛生組合 → 地区衛生組合協議会 → 高松市衛生組合連合会

116,776世帯 → 2,634組合 → 46地区 （平成24年4月1日現在）

(2) 活動状況

各地区衛生組合協議会等が中心となり、地区内の道路等の空き缶など散乱ごみの清掃を実施するクリーン高松推進事業への助成のほか、次のような活動を行っています。

- ア 環境美化運動の推進
- イ ごみ減量運動等の推進
- ウ ごみの正しい出し方の普及推進
- エ 住み良いまちづくりの推進

オ 買い物袋持参運動の推進

カ 環境衛生知識の向上等

(3) 助成措置

(平成23年度実績)

区 分	金 額 (円)
衛生組合連合会運営補助金	2,938,050
清掃事業等に対する傷害保険料	1,079,410
その他	1,452,000
合 計	5,469,460

4 その他の活動

(1) 石けん使用推進

消費者団体の協力を得て、「暮らしをみなおす市民のつどい」等の啓発行事や廃食油収集事業において、石けんの適正使用についての啓発を行うなど、環境保全に対する市民の理解と協力が得られるよう努めました。

(2) 廃食油収集事業

水質汚染の防止を図るため、家庭用廃食油の収集を高松市消費者団体連絡協議会および20地区コミュニティ協議会に委託し、廃食油を持参した方に洗たく用石けんを提供するとともに、適正使用の啓発に努めました。

収集場所 環境プラザ，市内23箇所のコミュニティセンター

収 集 日 環境プラザ…毎月10日（10日が土・日・月曜日および祝日のときは前後の平日に変更）
各コミュニティセンター … 各地区の指定する日（年3～4回）

収集時間 環境プラザ…午前10時～正午

各コミュニティセンター … 各地区の指定する時間

廃食油収集事業により収集された廃食油は、主に精製されて豚や鶏などの飼料として再利用され、食肉や卵などの畜産物を生産する上で重要なリサイクル資源となっています。そのほかインクや塗料、洗剤などの工業用原料や、燃料としてもリサイクルされています。

(単位：ℓ)

年度	H19	H20	H21	H22	H23
収集量	6,228	5,328	6,701	6,406	6,228

(3) グリーンコンシューマー活動

「環境にやさしい買い物推進協議会（グリーンコンシューマーかがわ）」に設立時から参加し、買い物袋持参運動や環境に配慮した商品選択の推進などの啓発キャンペーンに参加しました。

(4) 使用済みわりばし回収

NPOグリーンコンシューマー高松の事業に協力し、平成20年4月より使用済みわりばし回収BOXを高松市環境プラザに常設しています。NPOグリーンコンシューマー高松では、環境プラザ以外にも、地域の祭りや各団体のイベント、コミュニティセンター等でも使用済みわりばし回収BOXを設置

し、地域住民によるわりばし回収を行い、廃棄物の抑制、資源循環型社会の推進に努めています。

回収状況(環境プラザ)

(単位：kg)

年度	H20	H21	H22	H23
回収量	1,474	1,924	1,915	2,628.5